

令和5年度学校防災教育実践モデル地域研究事業の取組

四国中央市教育委員会
四国中央市立寒川小学校

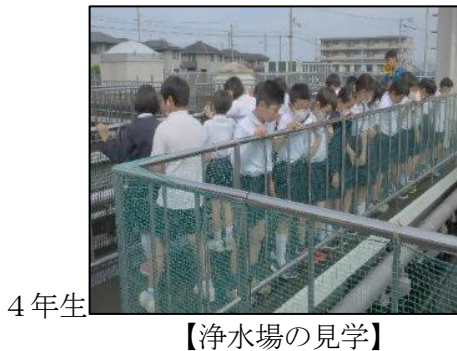
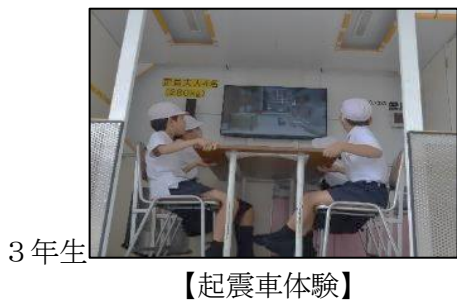
1 取組の目的

コミュニティ・スクールを生かし、家庭・地域と連携・協働した防災・減災教育を推進することにより、自他の命を守るために主体的に行動することができる児童の育成を目指す。

2 取組の内容

(1) 系統的な防災・減災教育の推進

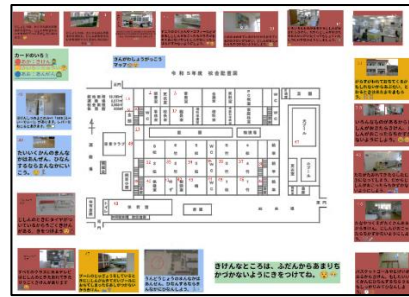
防災教育年間計画を作成し、各学年の目標を設定した。教科等横断的な視点での指導内容を組み立て、6年間の学習が系統的につながるよう計画した。





5年生

【防災町歩き】



【校内防災マップづくり】



6年生

【着衣水泳】



【「マイタイムライン」の作成】

(2) 防災教育に関する指導力を向上させるための教職員研修の推進

ア 先進地視察研修（宮城県石巻市 8月1日～3日）

防災教育先進的実践地である宮城県石巻市を訪問し、視察研修を行った。

石巻市立石巻小学校では、校長と防災主幹教諭から防災教育への取組についてのお話をいただいた。

また、東日本大震災の遺構（門脇小学校跡、大川小学校跡）や、震災伝承施設等を訪問して、今も生々しい災害の爪痕を見学し、被災した方々の体験談を聞いた。

後日、報告会を行い、視察の内容を教職員で共有した。



【石巻市を山頂から】



【大川小学校遺構】



【視察研修報告会】

イ 防災講演会（8月23日）

愛媛大学防災情報研究センター副センター長 二神 透先生を講師としてお招きし、「四国中央市で起こりうる災害について」の演題で防災講演会を開催した。災害に備えることの大切さをお話いただいた。

後半は、防災対応カードゲーム教材「クロスロード」を使用してグループワークを行い、災害時の判断や行動についての多様な考えや価値観について学んだ。



【グループワークの様子】

ウ 実技研修

心肺蘇生法の実技研修会を開催した。この他にも、熱中症や食物アレルギーの対応に関する校内研修を定期的実施している。



エ 環境整備

校内の掃除用具入れや本棚に転倒防止対策を施した。【心肺蘇生法講習会】
また、落下の危険性のある掲示物の撤去も行った。

倒木の危険性を指摘されていた学校のシンボルツリー、すずかけの木について、保護者や地域と協議を重ねて、児童の安全を最優先に考えて伐木を行った。



【掃除道具入れを固定】



【本棚の転倒防止】



【すずかけの木の伐採】

(3) 児童相互、家庭、地域との連携を図った防災活動の推進

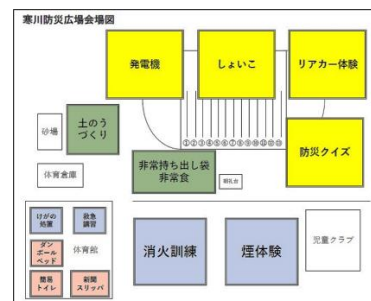
ア 寒川防災広場（9月13日）

地域住民や関係機関の協力を得て、寒川防災広場を開催し、避難訓練や13班の縦割り班で各ブースの見学や体験を行った。

また、砂防学習会、手つなぎ防災広場も開催した。これらの活動の様子は地元の四国中央テレビのニュース番組で放映された。



【避難訓練】



【13の体験ブース】

イ 防災参観日（9月29日）

防災学習の内容を伝え、防災教育を家庭に広げる目的で、各学年で保護者とともに、活動する学習を展開した。

1年生 安全な行動を考える
 3年生 家の中の危険
 5年生 防災図上訓練 (DIG)

2年生 簡易トイレづくり
 4年生 防災バッグの検討
 6年生 我が家の防災計画の作成



【1年生】



【2年生】



【3年生】



【4年生】



【5年生】



【6年生】

ウ 避難訓練

第1回目の避難訓練では、地震が起きたときの身を守るポーズや、避難の仕方を学習した。防災頭巾は平常時には椅子の背もたれや座布団として使用している。

第2回目の避難訓練では、児童の把握を容易にし集合しやすくするため、防災頭巾に学年別の色リボンを付けた。また停電を想定し、拡声器で避難指示を出す訓練を実施した。



【身を守るサルのポーズ】



【学年カラーのリボン】



【拡声器で避難指示】

エ 本を活用した防災教育

防災図書コーナーの設置や、校長先生のおすすめの本の紹介等による、本を活用した防災教育にも積極的に取り組んでいる。



【防災図書コーナー】



【校長先生おすすめの本コーナー】



【防災図書コーナーの本】

オ ホームページや学校便り等を通しての情報発信

寒川小では、ホームページや学校便りでも積極的に情報発信をしている。

防災学習に関するページでは、これまでの活動内容をまとめて見ることができる。学校便りでも防災学習の取組を掲載し、保護者や地域の方に配布している。



【寒川小学校ホームページ】



【学校便り（えがお）】

カ 学校防災教育実践モデル地域研究事業実践委員会（6月14日）

実践委員会を開催した。愛媛大学防災情報研究センター 二神先生にお越しいただき、総合的な学校防災力の強化を図り児童を含めた地域住民全ての命を守れる体制づくりについて話し合い、指導助言をいただいた。また、過年度の防災マップの改善点も教えていただいた。



【第1回実践委員会】



【過年度作成の防災マップ】

キ オンライン防災学習（11月6日）

宮城県の前中学校教諭、佐藤 敏郎さんを講師に招き、オンラインにて防災学習会を開催した。5・6年生の児童は佐藤さんの話に聞き入り、災害時の状況や命を守る防災教育の大切さを感じ取った。教職員にとってもこれまでの防災教育を見つめ直す貴重な機会となった。



【オンラインで宮城県とつなぐ】

ク 成果発表会（12月6日）

12月6日に本事業の成果発表会を開催した。5年生総合的な学習の時間「寒川子ども守り隊 ～災害から命を守るために～」を公開授業とし、参加者に参観していただいた。また、石巻市立石巻小学校とオンラインでつながり、それぞれの学校の防災への取組を発表し意見交換を行った。

全体会では、学校防災アドバイザーとして、二神先生にご講演と指導助言をしていただき、災害による被害をゼロにすることはできないが、被害を最小限に抑える

ことは可能であり、そのために日頃から備え、準備しておくことが非常に大切である等の教えをいただいた。

3 取組の成果

- 事業開始前の令和5年2月と、開始後の10月に行った全校児童対象のアンケート調査の結果を比較したところ、複数の項目において肯定的な回答が増え、防災学習に対する必要性を感じ、災害への備えを行う児童が増えた。
- 様々な研修や研究授業、講演会に参加することで、教職員の防災意識や指導力が高まり、災害時の対応や連携について再確認し、防災の視点に立った日常の安全点検や環境整備ができるようになった。
- 児童が縦割り班や異学年と共同で学習する機会を取り入れたことで、学年を超えた交流と学び、協力する態度が深まった。
- 保護者や地域の方々も多く参加し、協力してくれたことで、防災の学びや取組を家庭や地域にも広げるきっかけになった。
- 先進地視察研修で訪問した宮城県石巻市及び石巻小学校とつながりができた。公開授業ではオンラインで互いの小学校の防災への取組を発表し合い、交流を深めることができた。

4 今後の課題

- 事業実施前と実施後で、アンケート結果が大きく変わらなかった項目もあったことから、今年度の課題を踏まえ、今後も継続して実践的な防災教育に取り組んでいく必要がある。
- 教職員の年齢構成が幅広く、自然災害の経験値も異なっている。より高い水準の防災教育を進めていけるよう、今後も研修の機会を確保する必要がある。
- 家庭により災害に対する危機意識や防災への取組にまだまだ差があることが分かった。今後も児童の指導と並行して保護者啓発を続けていく必要がある。